

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4470900202		
法人名	医療法人 積善会		
事業所名	グループホーム和の里		
所在地	大分県豊後高田市呉崎755-33		
自己評価作成日	令和3年11月1日	評価結果市町村受理日	令和4年1月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	大分県大分市大津町2丁目1番41号		
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号		
訪問調査日	令和3年12月7日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

1人1人の持っている能力を見極めて、力を発揮できる活動を工夫、アイデアを出して、役割りと生きがいを持って生活して頂けるように支援している。
 ホームにいながらでも、四季折々の食材で旬を味わうことができる。(新米、タケノコ、ニガウリ、栗、芋他)
 旬の食材で料理をすることで野菜を触り、臭いや味で季節を感じ、昔を思い出して会話が弾み、楽しい時間を過ごす事が出来る。
 家族の要望、本人の希望やしたいことができるホームをめざしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・人格を尊重するという理念に基づき、本人や家族の希望に沿った対応をしながら利用者本位のケアに努めている。
- ・笑いの絶えない事業所である。常に利用者に寄り添い信頼関係が築かれている。利用者同士の会話もあり、暖かい雰囲気を感じられる。
- ・母体の病院や協力医との連携が取られており、訪問診療や訪問看護などを利用し医療面でも安心して暮らすことができる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホームの理念である、尊厳を守る事、地域密着型サービスであることを毎月のミーティングで職員全員で共有し合い実践に繋げている。	理念に基づき利用者の希望に沿ったサービスの提供に努めている。一人ひとりの持てる能力を十分発揮できる場になるよう心掛けており、その人の状態にあった対応をしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	盆踊りや祭りに浴衣を着て参加し踊り、地域の方々と一緒に大衆演劇を観覧し、運動会見学、お接待、イベントにて地域の方々と交流していたがコロナ禍で機会がなかった。	玄関先などで地域の人と話をしたり、収穫された野菜や花などをもらったりしている。ボランティアが手作りの小物をもって来たり、利用者の事を気にかけてもらって話をしに来たりしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホームの見学・申込等、来居された家族や地域の方の話を聞き、ホームで実践してきた色々なケースの取り組みや経験を活かして在宅介護での問題や不安等傾聴しアドバイスしている。認知症の人と家族の会の啓発活動に参加している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	市・地域包括、ボランティア、民生委員、家族の方の参加。状況報告後それぞれの立場からの感想や意見交換してホームの運営に活かしている。コロナ禍で書面や電話で近況報告し意見をサービス向上に役立てている。	対面での会議が出来ず書面にて開催している。利用者の近況などを報告して委員より意見などを頂いている。コロナ禍でも元気で過ごしてほしいという感想などをもらっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の開催について毎回市の担当者との連絡を取り相談している。感染対策や災害時の取り組み等について助言を受けている。	推進会議の案内で市との連携は取れている。市からは感染症や災害時の対応について助言をもらっている。研修の案内があり、リモートで参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について研修会に参加、拘束にあたる具体的な行為を正しく理解するように、ホームでは、どのようなことが拘束に当たるのか、スピーチロック、言葉の抑制についてなどを毎月のミーティングで確認している。	法人や事業所独自の研修がある。毎月のミーティングでテーマを決めて研修を行っている。スピーチロックについては特に気を付け全職員の連携の元、意識を統一しケアに努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員それぞれが、高齢者虐待に関する情報を持ち寄り検討を行う機会を設けている。また、職員各々が互いの行動言動に対して意見を出し合い虐待の根絶をチェックしている。入浴時に内出血発見時職員間で対応時の問題がないか確認している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護の制度について研修会で学び、自立支援事業や成年後見制度を理解する。以前に制度を活用していた方の例などを参考に、職員で共有している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に詳しく説明し納得してもらい 不明な点等は丁寧に聞き直している。利用料他改定の際には十分に説明して納得の上で同意してもらっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃より、個人的に不満や要望を聞く機会を設けている。家族にも来居時や電話での連絡時に意見を聞くようにしている。要望や意見を職員間で共有している。運営会議の議事録に上げて報告し、意見を運営に反映している。	面会時や電話で家族より意見などを聞いている。なんでも言える信頼関係を構築するよう努めている。利用者には日頃関わる中で意見要望を聞いている。季節に合わない服を着ていることを聞かれ、本人が好きでなので着ていると説明している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃より良好な職員関係を築き、ミーティングの場で意見交換して、提案を運営に反映できるようにしている。	毎月のミーティングで職員より意見などを聞いている。何でも話せる関係が築かれている。職員駐車場が遠く検討を要望し、近くに駐車できるようになった。普段の業務が多く掃除など負担を軽減してほしいとの要望にも一部業者を利用するなど改善できた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎月、代表者(法人理事長)と職員が直接話せる会議を実施しており、運営に反映出来るようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各委員会、リスク、感染、接遇他、緊急時の対応(心臓マッサージのやAEDの使用方法)等内部研修で技術や知識を深めている。ノーリフティングケアを学んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	隣接しているグループホームの管理者、職員と連絡を取り、行き来して情報交換、相談をし運営に反映している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談を行い、本人の状態を把握するように努め、日頃より本人の思いに向き合い、気持ちをくみ取り、職員全員が受入れてもらえる関係づくりに努めている。 在宅での習慣を大切にしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時に詳しく面談して、家族などが困っている事、ホームでの生活に対する不安や要望等を傾聴して、事業所としての対応を話し合っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の状態・習慣を把握し、必要としている支援を見極め、本人・家族が安心してホームでの生活が送れるよう、対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活活動の中で、出来る家事、得意分野を知り持っている力、能力を発揮できる場を設けて、したいこと、しようとしている事に制することなく伸び伸びとしてもらっている。 職員も頼りにしながら一緒におこなっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が会いに来たいと思う時に気負うことなく来ることが出来、家族の思いや悩みも気軽に話していただく雰囲気作り、本人の持っている能力を引き出し、職員に対して教えて頂く工夫をしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ドライブでふるさと訪問を取り入れたり、馴染みの美容室、病院などは希望を取り入れている。 コロナ禍となり面会制限があり厳しい状況である。馴染みの場所に車中ドライブは出来ている。	車でふるさと訪問をし、庭や玄関など家の様子を見る事が出来た。手紙や年賀状のやり取りもできている。法人の施設に来る美容室を利用し、新しい馴染みとなっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の個性を尊重し、気の合う人と気軽に話しが出来るような席の配置をしている。役割分担して利用者のできる家事をして頂き、利用者同士の関係を円滑にできるようにしている。時にはトラブルのなることがあるが都度修復が出来るように声掛けして、お互いに謝り合い仲直りが出来ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	環境の変化での不安が少しでも軽減できるように行先の事業所にホームでの生活での情報を細かく伝えている。 家族の方も退居後も連絡を取り、経過を聞いたりご家族からボランティアとして協力関係ができています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活歴の情報を収集し、利用者、家族とコミュニケーションをとりながら、希望、意向を把握する。困難な場合は、寄り添い、色々な場面での言動、表情の変化を見極め、思いや意向を理解するように努めている。	日頃の生活の中で聞いている。家族からは趣味やこれまでの生活歴などを聞いて情報を得ている。普段何気に出る言葉を書き留めて職員みんなで情報を共有し、プランに活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にヒアリングをして、生活歴やその人のライフスタイルを聞いてはいるが、充分でない場合は本人や家族、関係者に聞き取りを行っている。体調・精神面での変化を記録に残し、経過等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員は、日々の生活の中で心身の状態の変化に気づくように日頃の状態をしっかりと観ることを心がけている。表情や、発した言葉などを職員で共有して持っている力や能力を引き出せるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	生活していく中で、楽しみややりたいこと、活動の中で発した言葉などを逃さず、家族からも機会ある時に情報を収集してプランに取り入れる。情報を職員、多職種と共有して日々の生活、活動に意見やアイデアを反映し、評価している。	家族からは電話で要望などを聞いてプランに活かしている。草むしりをさせてほしいとか外出をして欲しいなどの要望も取り入れている。3か月に一度のモニタリング、半年に一度の見直しをして、状態が変わればその都度プランを変更している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日体調、精神面での特記事項発した言葉や表情を個別に介護記録して申し送り簿、1回/月のミーティングで情報を共有しながら介護計画書の見直しに役立てている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設のリハビリスタッフと連携して身体機能の評価、管理栄養士に栄養の評価アドバイスを状態の変化に伴い相談しながらサービスを変更している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	昨年までは、馴染みの美容室に行く、公民館での演劇鑑賞、運動会等地域の行事にも参加出来ていたが新型コロナ感染予防の為、ボランティアの訪問なども中止になっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に、本人家族に馴染みのかかりつけ医や緊急時の搬送を希望する病院名を聞いている。状態の変化に伴い、本人家族の希望する病院に受診している。	入所時に希望のかかりつけ医を選ぶことが出来る。毎週1回訪問診療があり医療との連携が取れている。専門科などの受診は職員や家族が同行している。訪問歯科も利用している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週月曜日に訪問看護師に情報を伝えて相談し、緊急時や夜間は電話で相談している。日頃より、会話の中での身体の痛みの訴えや入浴時に全身観察して、変化があれば、他職員状態も観察し看護師、協力医に報告し受診につなげている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は医療機関に対して本人の情報を詳しく提供し、家族や医療関係者と話し合いながら、入院中も相談員と連絡を取り合い退院に向けて支援するよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合について、面談、入居時に家族にホームの方針を伝えている。状態の変化に伴い、家族に状態報告し状態を理解してもらい、職員、家族、協力医、訪問看護、多職種職員ととも相談しながら、利用者の終末期に向けて支援している。	入居時に重症化した場合の事業所の方針を説明し確認している。協力医や訪問看護などの連携が取れており、重度化しても生活の質が維持できるよう支援する体制が取られている。ここでの生活が困難となった時も、次の施設等について家族と話をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	夜間一人対応でも慌てないように、急変時のマニュアルを作成している。心臓マッサージやAEDの使用法等消防の方より定期的に職員全員実践している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	職員に、夜間1人体制の時の災害の不安が大きく毎月夜間想定避難訓練を実施するようにした。呉地区の消防分団長に協力をお願いした。	毎月夜間想定避難訓練を行っている。特に一人体制となる夜間において一人でも対応できるように訓練を行っている。備蓄は法人内にある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室への入室時、理由を説明し、同意を得ている。何事においても、常に利用者に決定して頂くような声掛けをするように務めている。	入室時はノックをし、入る理由を説明して、勝手に入らないようにしている。トイレの声掛けは本人の様子やタイミングを見計らって行っている。カレンダー等掲示物にも本人や家族に確認している。施設のたよりなどに掲載する写真も許可を得ている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員は、出来る限り利用者と寄り添い、思いや希望を日々の生活、活動の中で聞き取りが出来るようにしている。聞き取りが難しい場合は表情や何気ない言葉を察知して職員で共有して自己決定の支援にとりくんでいる。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々決めたスケジュールはあるが、食事や入浴、体操、余暇の時間等一人一人の希望や体調、ペースに合わせて日々過ごして頂くようにしている。外気浴や草取りも本人の希望で見守りしながら行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝、下地ファンデーションや口紅をつけて身支度している方、昔ながらでマニキュアを綺麗につけている方。好みにあった服装を楽しみに着替えをしている。買い物や馴染みの美容室等にはコロナ禍でいけていない。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の食材を生かして、苦瓜でこねりやかぼちゃの煮つけ、昔を思い出すおかずやおやつ作りをしている。在宅で味わえた旬を感じられる食事を楽しんでもらえるようにしている。皮むき、野菜切、調理、味見等一緒にしている。	法人の厨房より副食が届いているが、時々旬の野菜を使って煮物などを作り季節を感じている。利用者と一緒におやつ作りをすることもある。唐揚げが食べたいという要望があり、クリスマス会の食事に取り入れたりする。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1人1人に合わせて量や形態を変えている。栄養状態を把握して、捕食や食事、水分量を栄養士、主治医等相談しながら捕食や好みの飲み物など提供し特に脱水にならないように注意している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自立している方も声掛けして、口の中の不具合を聞き歯科訪問してもらっている。食後の口腔ケアで状態を確認、舌ブラシ、スポンジ等個別に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中時間毎、必要な方にトイレ誘導実施、便器内での排泄を目指している。夜間のみパット交換している方が1名、他の方はコールをもらってトイレ誘導が行えている。	リハパンにパットを使用している人が多く、排泄パターンを把握しており、時間を見てトイレに誘導している。夜間オムツの人には定期的にパットを交換している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘にならないように日頃から体操や水分補給に努めている。協力医から下剤の内服と併用して、牛乳、オレンジジュース、ヨーグルト、バナナ、梅ジュース等便通に効果がある物で便秘を予防している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴介助者を女性の職員を希望される方の時には男性職員から女性に交替している。入浴の順番や温度など要望を聞き、体調を考慮して足浴、シャワー浴等支援している。	週2回午後に入浴をしている。冷暖房を使い気持ちよく入浴できるよう支援している。袖を浮かべたり湯上りには保湿剤を塗り肌の乾燥を防いだりして快適に入浴できるよう工夫をしている。好みのシャンプーやリンスを使うことができる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	各居室は利用者の思うような環境にしている。テレビや本を読んだり、昼寝をしたりしてホールでの共同の時間と居室でのプライベートな時間と思いきいに過ごしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報や服薬チェック表で飲み忘れや誤薬を防いでいる。個別に記録し、全職員が内容を把握できるようにしている。服薬による症状の変化がある場合、主治医に連絡し指示を受けている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	茶碗お盆拭き、洗濯たたみ 調理味見、台拭き、金魚のえさやり、布巾縫い、広告、新聞でのゴミ箱折り等得意な役割を決めて行っている。出来上がった物をホームの生活の中で使用している草取りを自ら率先して行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	昨年度まで、家族やボランティアの方の協力で四季折々の地域の行事やイベント、家での行事に参加していたが今年度はコロナ化禍で行っていない。ホームの車で2便に分けて海や桜、向日葵の花鑑賞等少人数でマスク着用で気分転換の外出をしている。	もみじを見にドライブに出かけた。またあじさいやひまわりを見に少人数で外出して気分転換にもなっている。日常的に近所を散歩しながら会話も多く楽しいひと時になっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	支援実施は行っていない 家族にお願いしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望する電話の支援、年賀状(手紙)自筆での支援はできている。家族への連絡時に希望を聞き本人と代わり話が出来ている。 幼友達、友人からの年賀状や手紙を時々出して読まれている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間には観葉植物、四季を通しての花を育て、窓越しからでも楽しめるようにしている。木の剪定、日差しにて入ってくる光の調整を配慮。職員の動作、声がストレスに感じないように注意している。居室の植物の設置は本人の希望の有無を伺っている。	ホールには観葉植物が置かれ、水槽には魚が泳いでいる。ソファに座り歓談するなどゆっくりと時が流れるように感じられる。クリスマスツリーが飾られ、季節を感じる事が出来る。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下に2ヶ所のベンチを置き、一人でゆっくりと中庭を眺めて過ごしたり、仲良しの方と会話。ホールのソファでは仲良しの方ゆっくりテレビをみたり、音楽を聴いたり、新聞を読む等、思い思いに過ごしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	以前より使い慣れた椅子、テーブル、テレビを持ち込み、家族写真を飾っている。 好きな猫のぬいぐるみをベッドにおいて、話しかけたり一緒に寝ている。	居室にも観葉植物が置かれている部屋があり、利用者が水やりをしている。これまで着慣れた服がハンガーにかけられており、家からはテレビやイスや家具、小物などが持ち込まれ落ち着いた部屋作りとなっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	生活リハビリを目的にした環境、段差や和室を生かして、出来る事、わかることを見極めて、個別に対応している。立ち上がりが困難な方はベット柵をかえている。絵や文字で張り紙をしてわかりやすくしている。		